

2023 年度 運営総括

北星学園余市高等学校



I. はじめに

2023, 2024 年度 余市高校年間聖句

「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」

(コリントの信徒への手紙 二 4章18節)

- (1) 募集活動については、新型コロナウイルスによる様々な影響が残ったり現れたりする中で、苦戦が続く状況でした。例えば、不登校状態に不安感を持たないケースが増え、そのことから自宅から離れた環境で学び直す事へのハードルが再び高まっているという声をいくつかの場で耳にしました。そのような中での募集活動をどのように展開していくかが、2024年度の課題となります。
- (2) 教員1名の削減や設備改修を最低限にすることで支出を抑えましたが、在籍者数が予定数に満たないことが財政赤字の大きな要因となりました。引続き、財政改善を図るために様々な点での見直しを行います。一方で、屋根の防水や電気設備など、大きな補修や改修を必要とする箇所がいくつかあるため、計画を立てて進めていく必要があります。
- (3) 学校所有の寮のうち、1軒は管理人を見つけることができなかったため1年間稼働できない状況でしたが、ようやく目処が立ちました。2024年度は当初の予定から変更し、さくら下宿を女子寮に、入舟の寮を男子寮にしてスタートします。
- (4) 新型コロナウイルスの取扱いが大きく変わったこと、夏の熱中症アラートや冬の暴風雪警報発出時の対応など、これまでに経験がないことに対する判断が求められる場面が多々ありました。特に自然災害に関連する体制を整えるためにも緊急時対応マニュアルの整備を進める必要があります。
- (5) 本校受験希望者の内、中学1～2年生の段階で入学を希望しているケースが毎年何人かいます。2024年度の入学を視野に入れて中学3年生4月から移住し、余市の中学校に転校したケースが2件ありました。他にも、入学を機に家族で移住してくるケースも毎年複数件あります。このように全国から余市の教育が求められている事を再確認し、学校運営に反映していきます。

事業分野	◎ 達成	○ 達成への進行度 (高)	△ 達成への進行度 (低)	× 中止	計
教科教育	4	0	0	0	4
生活指導	2	0	0	0	2
進路指導	4	0	0	0	4
募集体制と広報	3	0	0	0	3
寮下宿の運営	1	0	1	0	2
教員採用計画	0	0	1	1	2
財務運営方針	1	1	1	0	3
施設・設備	0	0	2	0	2
合計	15	1	5	1	22

※達成度 : ◎達成、○達成への進行度(高)、△達成への進行度(低)、×中止

Ⅱ. 教科教育

(1)	授業のあり方を点検し、質の向上を図る	達成度	◎
-----	--------------------	-----	---

各教科で教材のブラッシュアップや発掘を行いました。例えば国語では、新しい学習指導要領で文学作品が大幅に削減されていますが、文学鑑賞が生徒の情操教育に必要なとの観点から、独自の展開を行いました。情報では、海外の学生とオンラインで交流する中で「日本の紹介」を動画で行いました。1、2年生が個人端末を持つことになりましたので、Googleクラスルームを使い、学習の指示や提出物を確認するなどICTの活用を促進しました。

(2)	地域と繋がりながら学ぶ	達成度	◎
-----	-------------	-----	---

総合講座では、2023年度より新しく開講した「カルデラ太鼓」では赤井川村のカルデラ太鼓保存会の方に、「創作」では町内の美術家に講師として来て頂きました。また、これまで通り「ぶどうのお仕事」「ヨットとスノボ」「希望の種を蒔こう」「社会福祉」「世界の文化を覗いてみよう」といった講座は町民に講師を務めてもらい地域内で活動を展開しました。特筆すべき点として、「ぶどうのお仕事」で商品化できたワインを札幌パルコで開催された「余市マルシェ」で販売することができるようになりました。「カルデラ太鼓」では、講師の先生がキコロ（赤井川）のClub-Medや倶知安での演奏会の機会に連れ出してくれ、生徒も喜んで演奏しました。

ボランティア局では、昨年度から続いている余市観光協会とのコラボ企画として、「余市町サイクリングマップ」を作りました。この取組みは、北海道の広報紙「ほっかいどう（2023年11月号）」の「高校生のマナビバ」にも取上げられました。



▲カルデラ太鼓

高校生のマナビバ

新たな視点で学びを深める道内の高校生の話題をお届けします。

■余市観光協会と協働して町内の観光サイクリングマップを制作
 北星学園余市高等学校では、余市観光協会とサイクリングツーリズムを進める地域おこし協力隊と協働し、実際に走って確認したサイクリングルート、生徒たちのイラストやコメントを盛り込んだ「余市町サイクリングマップ」を制作。訪れた観光客に、余市の景色や歴史、特産品を楽しんでもらえるように、マップは駅や観光協会などで配布しています。今年度は、新たなコースを追加したリメイク版の発行に向けて奮闘しています。

マップを作ったことで「余市のすごい」を知りました
 北星学園余市高等学校2年 ボランティア局長
 ほしむら 大志 さん 須田 来未 さん 富樫 乙華 さん

ボランティア局員のメンバーは10人ほどですが、活動内容により参加者を募ります。サイクリングマップの制作には、20人以上の生徒がイラストやコメントの作成に関与しました。東コースは坂道が多く大変でしたが、果樹園で食べたアイスが余計においしく感じられ、走る人の気持ちがわかってよかったです。マップを作ったことで、余市にはおしゃれなカフェや美しい景色がいっぱいあることを知りました。個人的なおすすめは、海に夕日が落ちる景色。輝くような大変なトウキビも美しいです。
 道庁学事課 TEL.011-204-5066

情報を得るときは、目の肥えを学びました。

イラストを担当した須田来未さん(左)、コースを走った富樫乙華さん(右)

自転車に乗り、実際のコースを確認

▲高校生のマナビバ(余市町サイクリングマップ)

余市のエコビレッジからの協力依頼をきっかけに、外務省のプログラムでもあるJENESYS 2023で、アジア地域の25名の外国人学生と交流しました。スタッフとして参加した生徒たち18名もとても楽しみながら活動しました。そのホスピタリティから、外国人学生たちも「生徒と連絡先を交換し、将来も連絡を取合えるようにしました。素晴らしい学びの機会と友情をありがとうございます」や「アットホームな雰囲気を作ろうとしている姿に安心感を覚えました」と感想を寄せてくれました。



▲JENESYS2023 プログラム協力

「NPO北海道自由が丘学園」「NPO法人余市教育福祉村」「おたるエデュケーション」「植物療法 r a s h i s a の庭」と連携して、「夢みる小学校」という映画の上映会を開催しました。この映画は、きのくに子どもの村学園のドキュメンタリー映画で、子どもの体験を大切にする教育を展開する小学校の取組みを紹介しているものです。後志だけではなく札幌からの参加者も含め、110名の申込みがあり、上映会の後にグループセッションを行い、余市の教育について参加者と情報共有しました。スミスミッションセンターの職員にも参加していただきました。



▲夢みる小学校上映会

(3)	執行部を中心とした自主活動を年間行事に組み込みクラスとして取組む	達成度	◎
-----	----------------------------------	-----	---

学校行事や生徒会活動については、予定通り取組むことができました。また、この間丁寧に扱ってこられなかった生徒総会のあり方について見直しをはじめました。特に、スポーツ大会や学校祭といった集団で取組むことを求める生徒たちには有意義な時間となりました。学年としての自主活動については、担任の関わりが必要となりますが、修学旅行や予餞会の取組みでリーダー集団が育つ仕組みが整いました。

(4)	実用英語技能検定や漢字検定受験の促進	達成度	◎
-----	--------------------	-----	---

英語検定については、3回実施しました。受験者増のために、地域の英語教室と連携を図りました。検定に向けて過去問題の配布・添削、二次試験に向けて個別に面接練習を行いました。

英語検定	第1回 5/26,7/2		第2回 9/29,11/5		第3回 1/19,2/18	
	受験数	合格数	受験数	合格数	受験数	合格数
2級	1	1	0	0	1	1
準2級	4	1	2	0	3	2
3級	7	2	1	1	3	0

漢字検定については、第2回・第3回は受験希望者が20名に達せず実施できませんでした。

1ヶ月ほど前から、テストと同じ形式の受験級の問題集を2日に1回渡して勉強させるようにしました。第1回目の検定は、推薦で進学を意識している3年生にとっては最後のチャンスになるため、2年生の段階から受験を考えるように勧めています。

漢字検定	第1回 (7/7)	
	受験数	合格数
2級	6	2
準2級	0	0
3級	15	6

Ⅲ. 生活指導

(1)	複雑化・多様化する事案に対する体制づくり	達成度	◎
-----	----------------------	-----	---

入学する生徒の背景として、発達障害、不登校経験、非行経験といった大きな枠でカテゴライズ出来るとはいえ、個々の抱えるケースや現れ方は様々です。また、生徒個人への指導や支援だけでは収まらず、家庭や保護者への指導や注意を行わなければならないケースがいくつも生じています。

ケースに対する考え方へのアドバイスは、北海道教育大学の平野直己先生を招いて「かたりば」と称する学習会を開催し、生徒対応の幅を広げる体制を作っています。2023年度は、10月17日に平野先生を招いて研修会を開催し、研修会後の質疑の時間に話し合うことができ、生徒が抱える様々なケースについての理解が深まる大切な機会となりました。

その他、担任が直接平野直己先生を訪問しアドバイスをもらうなど、それぞれのケースに対応する体制づくりに努めました。入学前にトラブルがあり、保護観察を受けている生徒もいます。近年は減少傾向ですが、毎年余市の保護司会と懇談会を開き、生徒の状況確認と連携の取り方を共有しています。

(2)	集団づくり教育の実践	達成度	◎
-----	------------	-----	---

寮内でのトラブルなど、関わり方を誤る案件がいくつか起こりました。事態が明らかになった時点で、関係したクラスや生徒に対して詳しい説明と問題点、本来どのように捉えるべきかを詳しく説明することができました。他人事ではなく自分の所属する集団の中で、また一緒に生活している仲間をどのように守るかといった視点で考えさせることを大切にしています。加えて、保護者や寮の管理人への説明や事態に対する学校の姿勢を伝えることにも注意を払い、周りの生徒に対しても、一緒に生活する上で必要な視点や捉え方を伝えることができました。大きなケースに発展する前に、情報を寄せてくれる生徒もいます。今後も丁寧に、個も育つ「集団づくり」を目指していきます。

また、発達障害や知的障害を抱える生徒への関わり方について、福祉的配慮ではなく、教育的視点で集団への関わり方や個々のつながりを構築する指導を取っています。この視点を大切にするこ
とで、人との関わりに苦手意識を持たなくなる生徒が増えています。

IV. 進路指導

(1)	選択肢を幅広く持つことができるような進路指導を展開する	達成度	◎
-----	-----------------------------	-----	---

「進路カフェ」という形で、いくつかの企画を実施しました。できるだけ、普段知り得ない業種や分野に触れられるように意図して企画を組みました。見直しや修正などが必要になりますが、生徒にとって新しい世界に触れる機会を複数設けることができました。自分の将来をイメージする中で、どのような進路を選択するかが大切になります。そのための情報収集の機会を今後も大切にしてい

	モンテカルロ		焚き火カフェ				福祉講話	志望理由書	大地リース	鈴木商会	模擬面接
実施日	5/17	11/28	5/25	10/5			6/29	8/24→9/1	8/28	9/6	9/27
対象学年	3年	2年	3年	全学年	2年	全学年	3年	3年	全学年	全学年	3年
参加範囲	全員	全員	全員	希望者	全員	希望者	全員	全員	希望者	希望者	希望者
参加人数	49名	56名	49名	20名	56名	15名	49名	49名	25名	6名	12名

約 10 の進路先（複数種の専門学校や短期大学など）から教員や職員に来てもらい、前後半に分かれて 2 つの学校説明が聞けるイベントを企画しました。



▲モンテカルロの進路ガイダンス

学校の中庭で、チューター（大学生や起業家など様々な職種や経験者）を 7～8 人の生徒が囲み、考え方や経歴を聞き、話をするイベントを企画しました。



▲焚き火カフェ

クレーン車やバックホーなどの建設機械も操縦でき、実際の建築系の仕事を知る機会となりました。



▲大地リースの重機体験

石狩のリサイクル工場を見学し、エアコンや自動車などのリサイクル工程を見て回る工場見学を企画しました。



▲鈴木商会の工場見学

マイナビの社員から、志望理由書の書き方に対する注意やアドバイスを受ける企画を実施しました。専門の分野からのアドバイスということで、気を付ける点がいくつも発見できる機会となりました。



▲マイナビによる志望理由書の書き方

こちらも教員とは違って緊張感を持って臨む生徒が多く、意識付けができる機会となりました。



▲J S コーポレーションによる模擬面接

(2)	高大連携事業の点検と、学内進学者の増加を目指す	達成度	◎
-----	-------------------------	-----	---

北星学園大学のオープンキャンパスに春と秋の2回、引率・参加しました。参加者は延べ20名でした。実際にキャンパスを見学する中で、本校を卒業した先輩が関わってくれる場面があると身近に感じよう。昨年と今年度はその甲斐あってか、北星学園大学への進学者が増えました。

また、余市高から大学へ進学した学生と教員の懇談会を12月12日に大学で実施しました。本校からは56期担任と教頭が出席しました。卒業期の違う学生同士の交流もできた、大変有意義な取り組みとなりました。

2023年度卒業生のうち、本校から北星学園大学に進学する生徒は6名（社会福祉学部心理学科2名、社会福祉学科2名、文学部心理・応用コミュニケーション学科2名）です。



▲北星学園大学オープンキャンパス

(3)	進学者に向けた学習支援	達成度	◎
-----	-------------	-----	---

各教科の中で、進学者に限らず社会に出るにあたって必要な思考を模索しながら教材に落とし込む取り組みを今年度も行いました。例えば国語では、文章を読みその要約や意図を見つける教材を組んでいます。実際に大学生になった卒業生からは、「あの授業がとても役に立っている。あれがなければレポート課題にもっと苦労しているはず」と感想を頂きました。

その他、進学先が決まった生徒に多くの学校から「入学前事前課題」が課せられていますが、その課題に対する支援を生徒から求められ、個別に対応するなど、基礎力向上のための学修支援の充実を図りました。

(4)	配慮が必要な生徒への支援	達成度	◎
-----	--------------	-----	---

担任が中心になり、その生徒の特性などを把握しています。また、教科担当や部活顧問などに関わる教員から得られる情報は担任に集約することになっています。それらの情報は、教員会議で全体に共有しています。そのほか、下宿管理人や保護者からも必要に応じて情報を収集し対応しました。

V. 募集体制と広報

(1)	入試広報部の配置	達成度	◎
-----	----------	-----	---

運営計画通りに体制を維持しました。また、全国で展開する教育講演相談会は、ここ数年間開催しなかった地方都市でも行いました。加えて、金曜日の夕方に行うことで1回の出張で3カ所開催することも試みました。（開催数58・参加組数209・個別面談数185）

SNSでの発信は業者を変更し、相談会案内を中心に展開しました。効果測定には時間がかかり

ますが、今後も随時ミーティングを行い、分析・検討・修正を行いながら進めます。

HPについては、受験検討者やその保護者からも「わかりやすい」「生徒の表情がよく、雰囲気伝わってくる」という評価を多く頂いており、大幅な修正は当面行わず活用します。引き続き、生徒たちの協力を得ながら更新していきます。

(2)	外部との連携を通じた募集活動	達成度	◎
-----	----------------	-----	---

HASSYADAI、さいたまユースサポートネットワーク、全国不登校新聞社、品川区子ども応援フリースペース、「非行」と向き合う親たちの会など、全国の団体・個人と繋がることができています。直接生徒募集につながるケースは多くありませんが、北星余市の教育を知っていただくためにも、丁寧に関わるようにしてきました。札幌の福祉法人「麦の子」からは、毎年複数名の入学者がいます。個別の特性や課題については、保護者や里親と担任が連携することで、信頼を得ています。山梨の不登校支援をしている「ぶどうの会」とは、可能な範囲で定例会（zoom）に参加してきたことから、ぶどうの会に関わる生徒が入学する予定です。

また、余市町内、小樽市内の中学校訪問を複数回行いました。特に余市町内の中学校は、学校行事にも訪問し、関係づくりを意識しました。その成果もあり、後志からの入学予定者が12名になっています。在学生の出身中学校や所属していたフリースクールに向けて、進級や卒業の報告についても5～6月に担任より発送しています。特に、不登校や非行などで心配な生徒の近況報告ということで、数カ所からお礼の電話やお手紙を送ってもらっています。

仙台の「非行の子を持つ親の会」が発行している広報誌では、本校教員のレポートを約5年にわたって掲載する機会を設けてもらい、2023年度で完結しました。

(3)	教育相談会から学校見学につながる取組みと学校見学会の実施	達成度	◎
-----	------------------------------	-----	---

合同相談会や教育相談会では、面談の際に学校見学をお勧めしました。まだ過去のマスメディアでの取上げられ方やドラマなどでのイメージが残っている事があります。そういった方には、実際の生活を見てもらうことや生徒と触れ合ってもらうことで、リアルな北星余市のイメージに上書きしてもらうことが必要であると考えています。事実、今年度においても学校見学に来られた方の受験率は高い結果となりました（過去5年平均60%以上、23年度は76%）。

VI. 寮下宿の運営

(1)	「家庭的雰囲気の中で生活する」経験を維持する	達成度	◎
-----	------------------------	-----	---

「同年代と一緒に生活することで教育的効果が期待できる」という考えに基づき、その環境を大切にしています。教師や親とは違う立場である管理人さんの関わりは、生徒にとって大きな成長の機会になっています。「新しい管理人が増えたこと」と「教員が減ったこと」で、寮訪問の中で教育的視点の共有が難しくなっています。状況改善のために、放課後町内見回り時に最低1軒の下宿訪問をするようにしました。その中で、生徒状況の共有や困りごとの聞き取りなどを行い、教員内で共有しました。

(2)	学校管理寮の運営見直し	達成度	△
-----	-------------	-----	---

2023年度スタートに向けて2軒の寮を開設しました。さくら下宿（男子寮）は稼働していたものを移行した形でしたのでスムーズにスタートできました。一方、入舟寮（女子寮）は管理人の選定がうまく行かず、結果として1年間稼働させることができませんでした。2024年度には両下宿とも

稼働できます。他寮との関係もあり、優先的に案内することはできませんが、受入れ条件（食事や立地条件など）で選ばれるような運営を心がけていきます。さくら下宿の充足率は、3割程度でしたが、2024年度から女子寮に転換します。

なお、管理人の高齢化を理由に、2023年度末をもって3軒の寮が閉寮することとなりました（男子寮1軒、女子寮2軒）。

VII. 教員採用計画

(1)	教育理念を継承できる年齢バランスを考慮した採用計画	達成度	×
-----	---------------------------	-----	---

全国的に教員募集が難しくなっている中で、年齢バランスを考慮した採用計画を立てることはできませんでした。しかし、年齢層が偏ってしまうことは避けたいと考えており、可能な限り採用に向けて考慮していけるように努めます。

(2)	募集にかかる検討事項	達成度	△
-----	------------	-----	---

運営計画で記載した通り、人事採用計画を可能な限り早めに設定し、募集時期を前倒ししていく必要がありましたが、想定外の退職者が出たこともあり、採用計画からは大きくずれたものになりました。

VIII. 財務運営方針

(1)	更正予算を踏まえ、必要に応じて再度年間計画を詰め直す	達成度	◎
-----	----------------------------	-----	---

補修や更新の必要な施設設備がいくつかありますが、2030年度までの計画の中で対応していくこととしました。ただし、生徒の学習活動や安全管理に関わるものについては状況を判断し対応しました。現在の予算執行の中には無駄なものが見られませんが、今後も丁寧に財政計画の点検が必要となります。

(2)	補助金・寄付金の拡充	達成度	○
-----	------------	-----	---

管理運営費補助金の申請は、本校の教育と合致するものに対して積極的に取り組みました。「年間計画の中に組み込む」ことも予定しましたが今年度は進めることができませんでした。次年度は、年間計画の中に組み込むことで、毎年度安定的に実施することができるようしていきたいと考えています。

寄付金については、マンスリー寄付金を機会あるごとに案内していますが、期待通りに増えていません。企業寄付については外部の方と相談したいと考えていますが、今年度は進みませんでした。

ふるさと納税については、町と相談する糸口ができました。「余市町のふるさと納税の活用先に本校生徒の学校生活を支えるような項目を入れてもらえれば、PTAやPTA-OBに案内しやすくなる」として、役場に検討を依頼しました。今後も、役場との検討を進めていきます。

(3)	生徒募集体制と安定した入学者数	達成度	△
-----	-----------------	-----	---

入試広報部で年間の計画を立て、校長・教頭・入試委員も含めて動くようにしましたが、負担の偏りが大きく、体制の見直しが必要となっています。2023年度は、小樽後志の中学校や適応指導教室に複数回訪問しました。そのうちいくつかは学校行事（体育祭や合唱コンクール）の見学という

形で訪れました。それらの効果もあり、2024 年度入試において、小樽後志から 12 名（3/29 日時点）の受験がありました。全国の相談会、合同相談会は 20 箇所・124 組の個別面談数となりました（5 年平均 1 会場 6 ～ 7 組の面談）。本校主催の相談会は、これまで土日に開催していましたが、1 回の出張で回数を増やし、この間開催しなかった地方都市で金曜日の夜に 5 箇所設定し、9 組の参加がありました。新しい試みとして、オンライン（メタバース）による学校説明会を 3 月 3 日に開催しました。オンラインということもあり、アメリカからの参加が 1 組ありました。説明を聞き、2024 年度に転校してくる方向で検討しています。

2024 年度入試の受験者数は 66 名で、入学者予定者は 63 名（と復学 1 名）です。

IX. 施設・設備

(1)	補修が必要な施設設備の確認と改修計画	達成度	△
-----	--------------------	-----	---

補修の必要な施設設備について、事務室で点検を行い、その補修計画を 2030 年度までの予算計画に盛り込みました。しかし、突発的な補修が発生することも多く、予定通りに進めることができませんでした。

(2)	学校管理寮について	達成度	△
-----	-----------	-----	---

2023 年度から 2 軒の学校管理寮を立上げました。しかし、女子寮の管理人が見つからなかったことから運営させることができませんでした。当初の予定通りの人数規模や運営体制が取れなかったことで、次のような決算の見込みとなりました。

既存の寮では、管理人の高齢化に伴う寮閉鎖が 3 軒ありました。

余市高 男子寮・女子寮の収支（2023 年度決算見込額）				
（単位 円）				
区分	項目	男子下宿 （さくら下宿）	女子下宿 （入舟寮）	合計
収入	付随事業収入	5,081,670	0	5,081,670
	入寮費収入	200,000	0	200,000
	寮費・暖房費収入	4,881,670	0	4,881,670
	雑収入	0	0	0
	収入合計	5,081,670	0	5,081,670
支出	寄宿舎管理費	8,920,951	2,630,809	11,551,760
	管理用機器備品支出	0	180,000	180,000
	消耗品費	144,985	1,022,984	1,167,969
	旅費交通費	0	0	0
	通信運搬費	73,520	72,726	146,246
	雑誌資料費	0	0	0
	会議・渉外費	1,909	0	1,909
	委託報酬手数料	2,306,680	23,895	2,330,575
	補助活動支出	1,453,589	0	1,453,589
	光熱水費	676,431	207,604	884,035
	修繕費	96,580	0	96,580
	損害保険料	7,324	7,323	14,647
	公租公課	49,530	49,529	99,059
	減価償却費	4,110,403	1,066,748	5,177,151
	支出合計	8,920,951	2,630,809	11,551,760
収支差額		▲ 3,839,281	▲ 2,630,809	▲ 6,470,090

以 上

北 星 学 園 余 市 高 等 学 校 の 中 長 期 計 画

スクール・ミッション

使 命	： 人の中で生きる力を育てる
目的及び教育目標	： キリスト教主義学校として宗教的ミッションを大切にし、集団を基礎とした高校生活を通して社会生活を営む上で大切な「多様な他者と共存する力」を育む。

2040年までに目指す姿	強化・改革に取り組む事柄			2030年Milestone（中期目標）
【「人の中で生きる力を育てる」ため、3つの柱を土台とした高等学校を築く】 1.「集団づくり教育」を軸に据えた特色ある高等学校 2. 社会や地域、多様な人々から必要とされる高等学校 3. 適切な人事・財務計画のもと安定した経営を継続できる高等学校	教 学	Ⅰ 教科教育	スクール・ポリシーを踏まえた教育を実施し、スクールミッションの実現を目指す。	グラデュエーション・ポリシーの達成状況を点検・評価し、スクール・ポリシーを改善・見直しを行う体制を構築する。
				スクール・ポリシーに基づいた教育を実践するために、外部研修への参加や講師を招いた学習会を開催し、教員のスキルを向上させる。
				知識を得ることや学ぶことに能動的に取り組み、自らの世界を広げることができるような授業や行事を計画する。
				他者の考え方や価値観に触れることで人間性の成長を図ることができるように、対話による学習の機会を多く設けた授業を展開する。
				他者と協力する力や課題解決に必要な考え方を体得するために、探究を用いた授業の展開を推進する。
				発表力を身に付けられるように、探求的な学習のほか、弁論や音楽、動画などの媒体を活用した自己表現を行えるような機会を充実させる。
				3年間の学校生活を通して、科学的・論理的な思考を深める事ができる授業や諸活動を充実させる。
				様々な情報の中から本当に必要なものを正しく科学的な視点を用いて選び取る力を身に付けさせる。
				総合講座を活用し、社会や地域と繋がりながら学ぶ機会を充実させる。
		Ⅱ 生活指導		生徒会執行部を中心とした自主活動を年間計画に組み込み、クラスを中心として取り組む体制を確立する。
				複雑化・多様化している事案に対し、指導力強化を目的に複数教員による生活指導体制を確立する。
				自治能力を伴う「集団づくり教育」を理念として浸透させ、それを生活指導においても実践できる体制を構築する。
				多様性を受入れ関わり合うことで社会性を身につけられるよう、HR活動を中心とした「クラスづくり」を通して実践する。

2040年までに目指す姿	強化・改革に取り組む事柄			2030年Milestone（中期目標）
【「人の中で生きる力を育てる」ため、3つの柱を土台とした高等学校を築く】 1. 「集団づくり教育」を軸に据えた特色ある高等学校 2. 社会や地域、多様な人々から必要とされる高等学校 3. 適切な人事・財務計画のもと安定した経営を継続できる高等学校	教 学	Ⅲ 進 路 指 導	ス ク ー ル ・ ポ リ シ ー を 踏 ま え た 教 育 を 実 施 し 、 ス ク ー ル ミ ツ シ ヨ ン の 実 現 を 目 指 す。	進学・就職問わず、選択肢を幅広く持つことができるよう様々な生き方を紹介する機会を充実させる。
				生徒自らが将来どのように生きていきたいか考え、それに見合った進路選択ができるよう支援体制を強化する。
				進学者に向けた支援を教科内で行うための体制を確立する。
				高大連携事業の効果を検証し、取組みの強化を図りながら学園内進学者を増やす。
	経 営 ・ 管 理	Ⅰ 募 集 体 制 と 広 報 Ⅱ 働 き 方 改 革 Ⅲ 採 用 計 画		安定した入学者数を確保するために、1名の専任教員、1名の専任事務を「入試・広報」として配置し、年間計画に基づいて実働にあたることのできる体制を構築する。
				学校見学を通して本校の魅力や雰囲気を知ってもらうために実施体制を見直し、柔軟に見学を受け入れられる体制を構築する。
				WebサイトやSNS、Web広告等を活用した広報のほか、全国での相談会を通した魅力の発信を行い、それらの効果検証を行いながら効率的な広報戦略を立案できる体制を確立する。
	生徒が町民にお世話になりながら「家庭的雰囲気の中で生活する」環境は教育的効果が高いことから、この体制を継続するための管理体制を確立する。			
	将来に向けた人事計画において、教育理念を継承し続けられるよう年齢バランスに考慮した採用計画を立て、運用できるような体制を確立する。			
	財 務	Ⅰ 財 務 運 営 方 針 Ⅱ 施 設 ・ 設 備		2030年に向けて設定した財政運営目標を達成する。
				学校の理念に合致する実践や活動を積極的に取り入れ、寄付金や補助金を拡充する。
				入学者を安定させるための募集体制と連動させ、適正な入学者数を獲得し、収入を安定させる。
				将来に向けた人事計画の取組みと連動させ、バランスの良い年齢構成から適正な財政構造に転換し、収支バランスを整える。
				寮下宿のあり方を含めた施設・設備計画を立案し、教育計画や生徒の安全等にも配慮した運営体制を構築する。
	施設・校舎の老朽化から起こる補修や機能移転に必要な新しい設備等については、当面精査しながら必要な整備のみを行う方針の下、支出を抑制する。			